

山田高 執念の26連覇

全国高校サッカー県大会

第101回全国高校サッカー選手権県大会は6日、青森市のカクヒロクアルファスレチックスタジアムで決勝を行い、青森山田が延長戦の末、2-1で野辺地西を破り、26年連続28回目

の優勝を飾った。試合は6年連続同じカード。青森山田は三橋のヘディングで先制したが、その後は野辺地西のGK西野の好守などに阻まれた。追加点を奪えず、同点とされて延長戦に。終了間際に小湊が決勝点を挙げ、粘る相手を取り切った。全国大会の組み合わせ抽選は21日に行われる。（本紙取材班）

好守・野辺西あと一歩

【評】青森山田は序盤から素早いパス回しと鋭いサイド攻撃で主導権を握った。前半10分、敵陣で2次攻撃からMF奈良岡がゴール前上げたクロスにDF小泉が頭でつなぎ、野辺地西の高木に直接F

【評】青森山田は序盤から素早いパス回しと鋭い

野辺地西は、組織的に粘り強い守備で青森山田の猛攻に耐えカウンターの反撃したものの、あと一歩及ばなかった。



組織的な守備 王者追い込む

野辺西

野辺地西が昨年度の全国王者をあと一歩まで追い詰めた。前半早々に先制点を許したが、士気は下がることなく、同点に追い付き延長戦へ。しかし、今回も青森山田の壁を越えられなかった。今年6月の県高校総体決勝で青森山田に先制を許した後、同じさまに失点を喫し敗れた。同じ失敗は繰り返すまいと、GK西野やDF陣を中心とした組織的な守備を鍛え、この日の青森

山田の激しい攻撃に対抗した。後半15分、ペナルティエリア付近でFKを獲得。託されたのは「誰よりもFKを練習してきた」という年生DF高

木。迷いなく思い切り蹴り込んだボールは狙い通りのファーサイドに決まり、王者を慌てさせた。敗れはしたが、青森山田と堂々と渡り合い、実力の高さを示した。「高校総体で敗れた。夏から選手一人一人がタフになった。失点后、総崩れしなかった点は選手たちの取り組みの成果」と三上監督。高木は「全国で優勝する力を持つチームと戦えることに感謝したい。次こそ倒しにいく」と決意を語った。（正井勇子）